カナカナカナ
ガチャッ

阿蘇は見ていた
村野守美

阿蘇はいつもそこにある。
キイッ
キイッ

そして、じっと見ている。

ギイッ

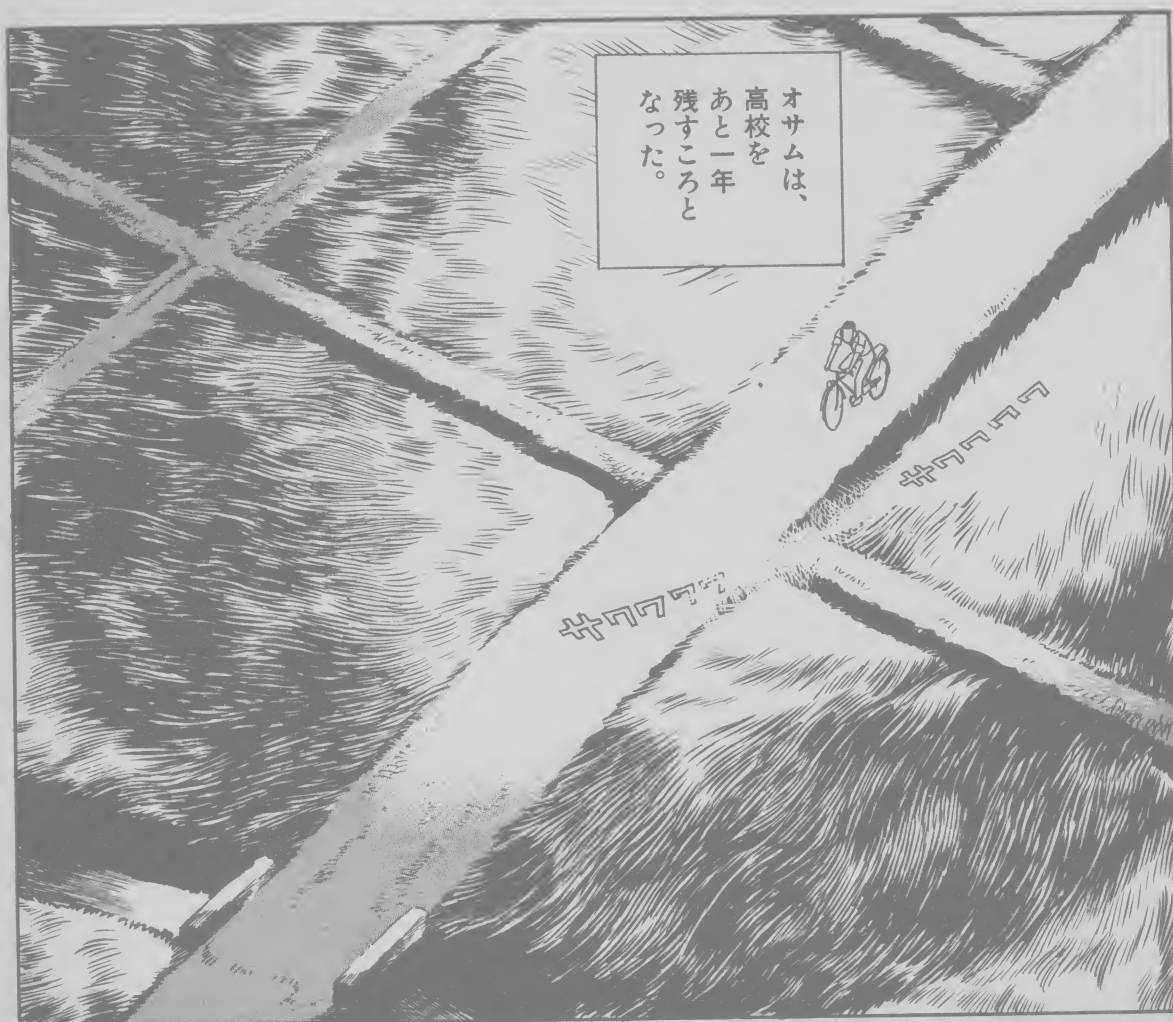
ギイッ

オサムは、
この道を
通るとき、

必ず
阿蘇中岳を
ふりあおぐ。

ものごころ
ついた
ころから、
それが癖に
なっていた。

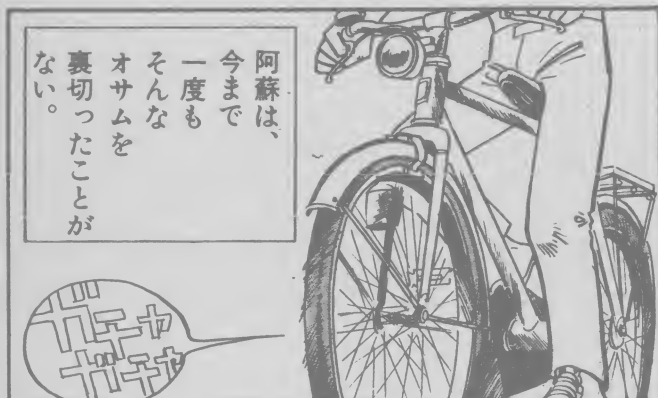
中学を
終えるころは、
根子岳、高岳、
中岳、烏帽子岳、
杵島岳からなる
阿蘇五岳の
壮観に、こころ
奪われるように
なった。

四節の折に
ふれて、さまざまな
表情を現わす
阿蘇外輪山の
陰陽は、
少年の多感な
感情に、雄弁に
語りかけるものが
あったろう。

オサムは、
高校を
あと一年
残すころと
なった。

このごろ、阿蘇を見上げるオサムのこころは、ある信仰に近いものがある。
ギイッ
それは、阿蘇山に対して敬虔な讃美であり、
信頼と尊敬の感情だ。
この山は、いつも俺を見ている。
じっと見てくれている。
ギイッ

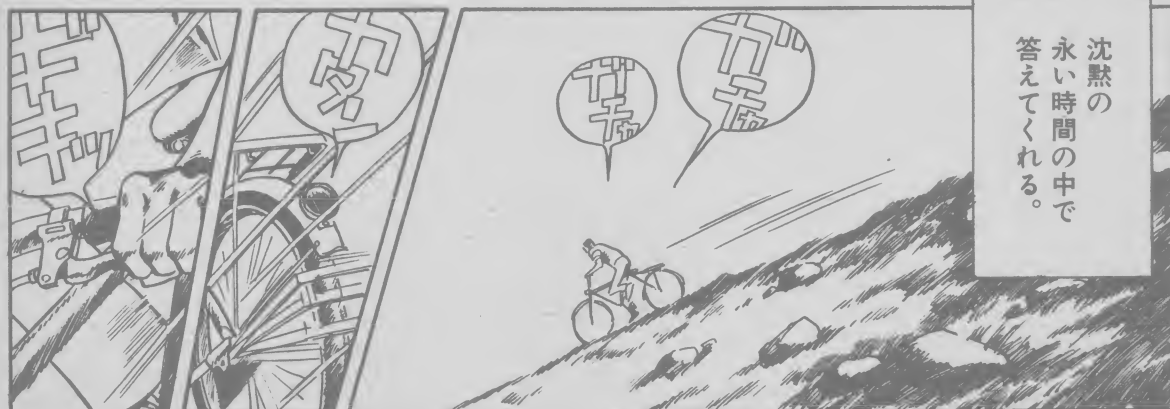
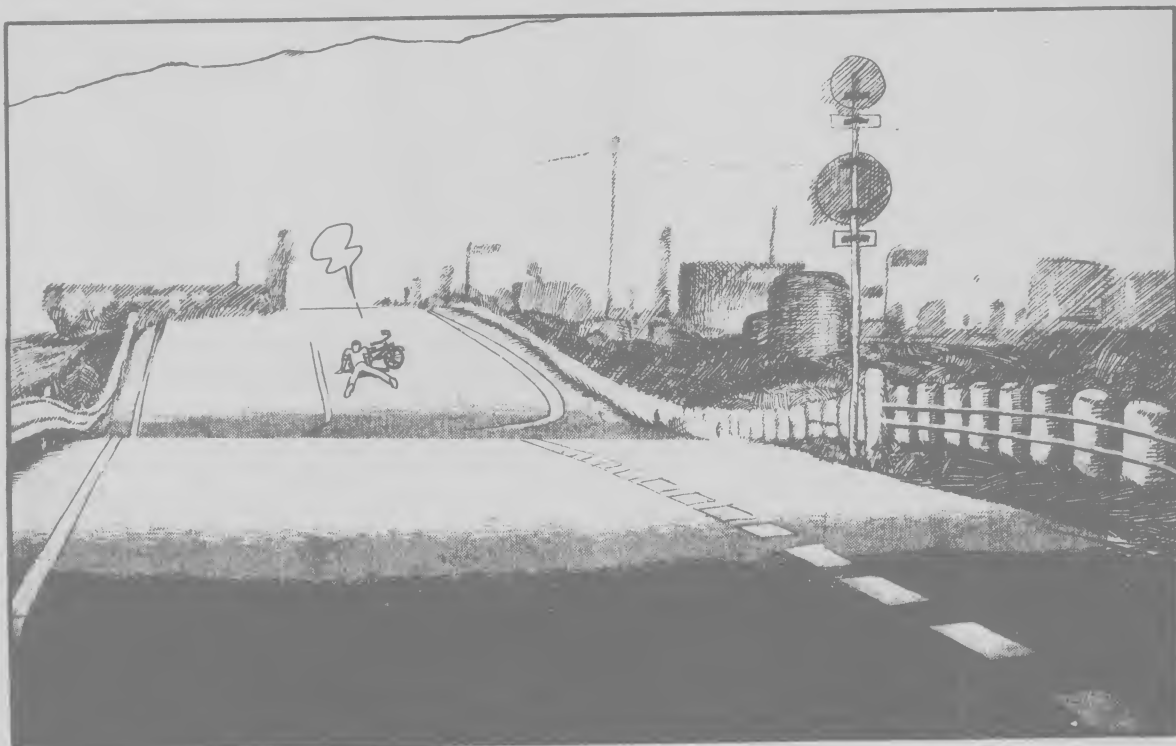
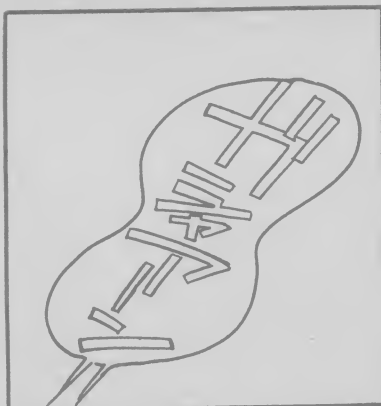
いつのころからか、そんなふうになっていた。

そのせいもあって、
特に、このころの少年が誰でも味わう不安や、言いようのない孤独の心の隙間が起こったときは、阿蘇を見上げることが多くなる。

阿蘇は、今まで一度もそんなオサムを裏切ったことがない。
ガチャガチャ

沈黙の永い時間の中で答えてくれる。
ガチャ
ガチャ

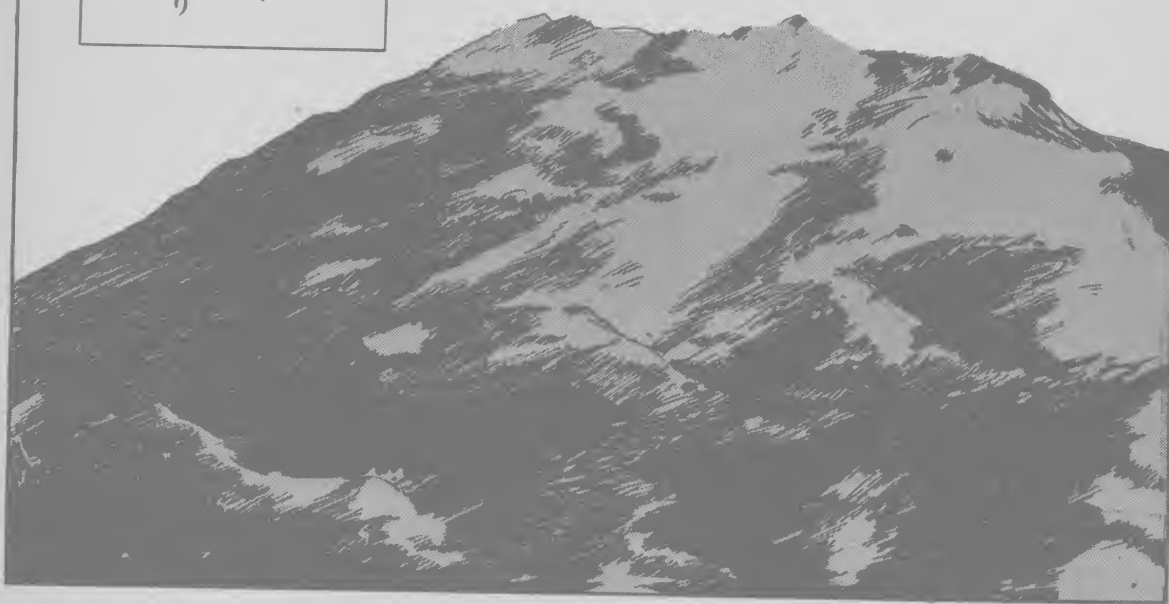
ガチャガチャ

キキキ

ガシャーン

思えば、
今まで
随分と多種に
オサムは、
この阿蘇に
語りかけてきた。
あるときは、
怒りを
ぶちまけ、
決心のほどを
誓い、
他人のなじりを
打ち明け、
グググ

恨み心を
恥じて
反省をし、

浮き立つ心を
見抜かれ
まいと
したり、

我ながら
大人に
なってきた、
などと
自負もしたり
してきた。

いつも
阿蘇は、
そんな
オサムを
じっと
見ている。

ギッ

母と五年前に
逝かれたとき、

哀しみで
つぶれそうな
オサムの胸を
阿蘇は、
いかにも
火の国の阿蘇山
らしい表情で
なぐさめて
くれた。

次々と力強く噴煙を天空に届かせ、

大地の灼熱の胎動を示して よどみない…。

ギィ

この感情は、今までになかったものだ。
はた
はたはたはた
ズドドドドン
ズドドドドン
ドオン
カカッカカッカカッ
カカッカカッ
おい、オサム。
トントントン
ボサーッとしとらんで、祭りの準備ば手伝わんかい。

ああ、そンつもりで飛ばして来たばい。ボサーッとしとったじゃなか。

奉納
なんか!! 怒らんちゃよかっじゃなっきゃっ。

村の若者(わっかもン)は、もう汗流しておっとばい。ぬしゃあ遅れて来とっくせ、そんくせふくれんちゃよかたい。
オサム

偉そうに、頭ごなしにボサーッとしとって言われてから、気ィ晴るっわけなかじゃなかか!!
それよか、ペコペコあやまったほうがヨカッですかッ。

……。
ニヤニオッ
……。

あ、あのー、境内にやぐらの木材が邪魔しとっとです。ばってん、オサムどかしてくれんと…？
女が口出さんちゃよか……。

俺がいつボサーッとしとったですか……？
ぬしゃ、まるでケンカごしなー。

なんかあったんねオサム…？
なんじゃなか…。
口出さんちゃよか。

こまンかこつで向かってきたっちゃ、ちゃんとわかっとっばい。
ペッ
なんのこつか…？

ハハハ、むきンならんちゃよか。
ボキボキ

オサム帰れ。祭りはまだ先ンこっだいけん。
トン トン トン
気分のよか時手伝おちくれ。
ばってん……、
よか……。
ああ、よか、よか。カン強か者がやっけん……帰れ、帰れ。
いちいち気にさわる言い方すんな。
もう、やめいや。おぬしゃ先輩の言こつ聴かんとか…………。

ンな
帰……。
ペコ

ン……。

ギッ

親父がバカだけん、子が苦労すっ……。

二十二、三げな、オサムン親父の新しか嫁ごは。
オサムン姉ちゃんのごたんねえ。

そぎゃん女ば、
母親ち思うて
一緒に
暮らさにゃん
ちは………。

どぎゃんも、
こぎゃんも、
考えちみんか。
気ン
重うなる。

たん
たん
たん
たん

なかなか
美形
女げな。
ミチ
オサムを
新しい母親に
盗られんごつ
せにゃ。
……。

ハハハ
歳も
近かけんね。

くだらんこつ言な。
あいたっ……。

……。

オサム……。

気の毒ッか……。

自分ン家のくせ
居心地ン
悪かこつね。

カァ
カァ
カァ
ギ…

祭りの手伝いをしに、行ったんでしょ……？

なにかあったのねその顔は。

せからしか。
自分ンこつだけ
しとれば
よか……。
冷たいもの
入れようか…。
と……
言っても
ちょうど
今ムギ茶を
煮詰めてる
とこだけど…。
気安い
………。
ものおじ
しない
新しい母…。

ずーっと
このままだ。
すっ
多分
どこかで
うちとけない
まま暮らすの
だろう。
姉のような
母と……。

オサムさん……。
カナ
カナ
カナ
……。

ね……オサムさんったら。

呼んでるのに返事もしてくれないのね…。
カナ
カナ
カナカナ

まるで根くらべね…。なるべく口を利きたくないオサムさんと、
はやく、母子っていうより、友達になりたい私と…。
カナ
カナ
カナ

友達……。
誰が欲した。友達など求めてはいない…。

ただきまずくわずらわしいだけだ…。
ちょっと来てよ。重いのよ、お願い…。

ぱふ
ぱふ
カチ
カチ

水を足しながら煮ていたものだから、おろせなくなっちゃったの。
この辺じゃなあ、男は台所にゃ入らんもんばい。

あら、どうして…………？

男は台所にゃ用はなかです。
今、用ができたわ。これをおろしてほしいの…。

そぎゃんこつ、女ン仕事ばい。
かなりいじわるね。

なにも知らない都会者…。
父は、どうしてあんな女を入れたのだろう。

…

どけ。

う……。
お、
重か…。

ね……、
オサムさん
だって
フラフラ
でしょう。
……。

なんて
あけすけに
笑う女
だろう…。

この家で
笑い声を
聴くのは、
母に悪い
ような
気がする…。

あっ

あ…、
あのー、
はい、
なんです。

お、
押し入れの…、
ああ、
汚れもの
でしょう。
困りますよ、
あんなに
ためて…。
これから
いちいち
出してね。
自分で
すッわい。
あら、
洗濯なんて
女の仕事バイ…
じゃあ
なかったの…。
パンツは
自分で
洗濯すっ。
黙って
他人ン
押し入れば
見んな…。
……。
気にしなくて
いいのよ…。
健康な
男の子なら、
誰だって
汚します。
カカカカカ
カカ
カカ

ぬしゃ、
祭りを
手伝わん
とか…？

若者が骨ば惜しむごたようじゃあかん。
言たな……。
べつに遊んどったっじゃなか…。
ウム。
……。
他人ン言こついちいち気にすんな。
ぬしゃー・ぬしだけん、
俺ーおれわい…。
なんのこっか…？
若嫁ごもろて、あそこん親父ゃうかれとっち言て、
ぬしがおちょくられとっとつぐらいわかっとっどが。
……。

そ、
そぎゃんこつ
なか。
聞いたこつ
なか。
嘘を
言って
しまった。

ンな
よか…。
ン……。

…。

あの女を
かばって、
あんな嘘を
言ったの
だろうか…。
否……。
ただ
わずらわし
かっただけだ。

どお…、
湯加減？
ああ、
ちょうど
よか。

ホントに
………？

……。
ぬるかなァー………。
ホントはぬるいはずよ。
火を落としてからもうだいぶたったもの…。
………。
いつになったら遠慮をとってくれるのかなー。
……。
それとも許してくれるのかしら…。
オサムさんも辛いだろうと思うけど、

あたしも
そんな
あなたを
見るの
つらい…。

……。
どうすれば
いいと
いうのだ…。

同情を
ひいて、
俺に
つけいろうと
するのか…。
俺は
なにも
して
いない。
否定も、
肯定も。

フフフ、
ちょっと
弱音はい
ちゃった
かしら…。

おもしろいわ
ね…………。

阿蘇は
夜でも
はっきり
見えるの
ね……。

阿蘇……
………。

父の晴れやかな
表情……。

母の命日に
仏壇を飾る。
母の好きだった
花……。

心を砕き、
気を配り
すぎる
新しい母。

聡明で
こだわらない
現代の女……。
ぱた
ぱた

眩しい
若い母。
みーーん
みーーん

今日も
祭りの手伝いに
行かないの…。

ああ、
もう
だいたい
終わったけん。

やっぱり
みんなに
……、
……。
みーーん
みーん

すっ

……。
みーーん

ど、
どうするの。
と、
とるの…？

みーん
よしなさいよ。ハハハ、バカみたい。
まるでまだ子供ね。
……。
……。
……。
ジジジ
ぽ
わ
だいじょうぶ……!?
どぎゃんなか…。

とったの
セミ……。
ジジジン

ジジジジ

見せて……。
しばらく
ぶりよ、
セミを近くで
見るの……。
ジジジジ
……。

アッ……。
ジジジ
ぱっ

…。

……。

見たかった
のに……。

……。
クルッ

オサムに
いいようの
ない
いらだちの
衝動が
こみあげる。

な、なーンすっとか。
こンげらあ。

今
そこで
ぬしの
親父ン嫁さん
おがんだげな。
アタッ
ボコッ
こンげらあ。
やっぱ、
ものすごオ
美形ったげな。
こんげらあ
ボコッ
やめんか、
オサム…。

こンげらあ。
こンげらあっ。
はあ、
はあ
……。
俺が、
悪かった、
悪かった。

あーいた。
痛かったあ。
…。

あら、
どうしたの
その顔…。

……。

町に
出たついでに
こんなに
買っちゃった
……。
買いもンなら、
家ンくる
爺ちゃんに
頼めば
よかわい。

家は昔から
そぎゃん
しとったっぞ
……。
わざわざ
噂ンたっとん、
町さン来ンちゃ
よかろうが。

……。

病院に
行ってきたの
…。

どっか
悪かっか
……!?

みーん
みーん
産婦人科。

みーんみーんみーんみーん

三カ月ですって……。

とっても嬉しい…。

お父さんより先にオサムさんに言っちゃって、なんだか恥ずかしいな。

この女は心から父を愛している。
みーんみーん
みーんみーん
みーん

みーん
みーん
みーん

いいのよ。さっ、どこかへ行きなさいよ、気にしないから。
あたしから離れていたほうが気が楽でしょ……。
よか。

お、重かもん持ったらあかんこつぐらい俺って知っとっちゃっと……。

……。
……。

……。

……。
みーーん

……。

バカみたいね。

あたし、どうしたのかしら…。

泣けて仕方ないなんて、バカみたい。ホント。

ぶろろ

女性に席ば、ゆずっこつぐらいでけんとか。コンよか男が…。
あ……。

ミチ……。
オサム……。
心配しとったっよ……。あぎゃんバカ気にせんで、みんな待っとっとに……。

こ、こっちが…、
……。

オサムの母です。

う…、うちゃあミチです。

きれえ……。
ハハハ、まだ尻が青か子供です…。
いつもこぎゃんあっとよ。

逢ったびにケンカすっとですよ。

仲がいいのね、きっと……。
ヤダーッスカーン

オサムは阿蘇が眩しい。
いつになくうちとけて、はずんで、そのくせ安らかな胸を見られたようで…。

この母もまた……、

阿蘇がこよなく好きに違いない……。

阿蘇はいつもそこにある。

阿蘇は見ていた／完